



苔むす無縁仏と本堂

『伝えるということ』

泰忍 弘

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤真弘〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋 潔・高橋利春
屋代 健・飯泉隆史・太田匡哉
山内芳次・近藤龍弘・近藤マリ子
近藤久美子
印刷・株式会社印刷

https://anzenji-nagaoka.com

https://www.instagram.com/
sotozen_anzenji/

ご家族の皆さままでご覧ください

あけましておめでとうござい
ます。昨年はコロナに翻弄され
た一年でありましたが、今年こ
そはコロナが収束し、日常の生
活に戻ることを願います。さて、
皆様もご存じかと思いますが、
お釈迦さまは、十二月八日にイ
ンドのブッタガヤでお悟りを開
かれました。お寺でも毎年その
日には「成道会」の法要を勤め
ています。お悟りを開いたお釈
迦さまはその教えを伝えるため
にサルナート鹿野苑で五人の比
丘に最初の説法をされました。こ
れを「初転法輪」といいます。「法
輪」とは仏教の教義のことであ
り「転」とは他人に伝えること
を意味しますので、「初転法輪」
とはお釈迦さまが初めてご自分
の教えを他の人に伝えたことで
す。まさに「仏」が「教え」を
説く、「仏教」の始まりです。お
釈迦さまはその後も四十五年に
わたり多くの方にその教えを説
く遊行の旅をされました。様々

な方に教えを説く中でお釈迦さ
まはそれぞれの方にどうお話
すれば分かり易いか、どのよう
に話せば理解できるか、その場
その場で最適な例えや比喻を駆
使して法を説かれました。これ
を「対機説法」といいます。お
医者様が患者の病気に応じて薬
を与える「応病与薬」という言
葉も同じ意味合いがあります。『大
般涅槃經』には病を煩惱に例え、
薬を法に例える一節もあります。
お釈迦様の教えはその後、脈々
と人から人へ言葉や経典を通し
て伝わっています。そんな中、近
年になると伝える手段として新
たなものが加わりました。それ
はインターネットです。お気づ
きの方もおられるかと思いますが、
前回よりこの季刊安善寺の
表紙タイトルの下に二つの「QR
コード」が記載されています。
「QRコード」というのは携帯電
話で読み取るとインターネット
上の指定したページの内容が見

れるものです。季刊安善寺の「QR
コード」はお寺のホームページ
とInstagramが見れるよ
うになっています。これもイン
ターネットで伝える手段の一つ
です。こういったものが苦手な方
興味のない方もたくさんおられ
ると思います。私もどちらかと
いうと得意な方ではありません。
しかし実際にこういったイン
ターネットやSNSなどはうま
く利用すると何かを伝えるとき
にとっても便利なものです。本来
何かを伝えるというときはお釈
迦様の様に面と向かってその方
に合わせながら伝えることが大
切です。インターネットでは相
手を見て伝えることは出来ませ
ん。ただ興味のある方が簡単に
自分から教えを求めることがで
きます。
今までは話し手が相手に応じ
る「対機説法」でありましたが、
これからはあふれる情報から聞
き手が取捨選択する「対機問法」
の時代になったともいえます。原
点である「対機説法」は当然心
掛け、新たな時代の新たな伝え
方もできる限り利用して、よ
り多くの方に仏の教えに触れて
いただければ幸いです。

【特集】

SDGsと仏教・禅

「誰一人取り残さない」が意味するもの

曹洞宗総合研究センター専任研究員
山形県地福寺副住職 宇野 全智

SDGs(エスディーゼーズ)は「持続可能な開発目標」と訳され、2015年の国際サミットで加盟193カ国の全会一致で採択された「貧困や飢餓の解消」「平和的社会の実現」などに関連する17の課題を、統合的・包括的に解決していこうとする国際目的です。



最も貧しく脆弱なところからの声を最優先に。

SDGs(エスディーゼーズ)は「誰一人取り残さない社会」を目指して、世界中が一丸となって取り組みを進める国際目標です。今、この地球に共に暮らす人々も、未来に暮らす人々も含めて、誰もが安心・安全に、そして自分らしく豊かに生きることが出

来る世界にしていこうという理想が、この目標の背景にあります。

長い人類の歴史の中で、私たちは過去に類を見ないほど恵まれた時代を生きています。また先進国とよばれるこの国で生活する私たちの多くは、安全で、快適で、豊かな

生活を享受しています。しかし同時に世界には、貧困や飢餓に苦しみ、病気や争いの恐怖に怯えながら暮らす人々が大勢います。教育や医療、一滴の飲み水でさえもままならない人々が大勢います。自分では選べないのに、生まれた場所や性別によって運命は大

きく変わってしまうのが現実なのです。

昨年は特に、アフガニスタンの紛争地域における貧困や女性差別の問題が大きく報道されました。またウイグルの強制労働で栽培された綿が、多くの国で使われる安価な衣服に使われていることが話題になりました。貧困や労働搾取、差別や環境汚染など、テレビで流れるさまざまなニュースを眼にし、苦しみを抱える人々の存在を知った時、私たちは何を思い、考えるのでしょうか。

曹洞宗お経『修証義』第四章に「菩提心を発すというは、己れ未だ度らざる前に一切衆生を度さんと発願し営むなり」という一節があります。「私の幸せは、私の行いによって生まれる多くの人の幸せの先にある」という意味です。仏教が教える私たちの本当の安らぎは、自らの欲望の追及の果てにあるものではありません。誰しもが持っている、苦しんでいる人や困っている人を「ほっとけない」という「菩薩の心」を、行いや形に

して届ける。その「優しさのリレー」に参加することこそが、信仰に生きる私たちの喜びと幸せにつながるのです。

また『修証義』第五章には「我等が行持に依りて諸仏の行持見成し、諸仏の大道通達するなり」という一節があります。「私の行いの中に、仏さまが宿る」という意味です。日々の生活の中で多くの人々のことを思い、食べ物や着るものとの向き合い方を丁寧に考えること。冷暖房の温度をよく確かめながらエネルギーのムダを見直していくこと。教育や医療やトイレなどの支援活動に、募金などの形で参加してみる。そうした実践はすべてSDGsへの取り組みに繋がります。「仏道修行の信仰実践」として、取り組む「わたし」を「仏らしく」成長させてくれるのです。

今日の自分は、「仏らしく」生活できたのだろうか？と確認しながら、多くの人々の安寧を願って生活する。そんな穏やかで豊かな毎日を皆で実現していきましょう。

【越後曹洞宗名刹巡り】 火防日本総本廟 謙信公所縁の古刹



常安寺 本堂

長岡市 常安寺

〒940-0027 新潟県長岡市谷内二丁目七七

www.joanji.jp/



<https://www.joanji.jp>



7月24日に行われる秋葉の火祭り



秋葉神社 奥の院

長岡市旧枋尾地区に伽藍を構える常安寺は天文十六年（一五四七）に長尾景虎（後の上杉謙信公）によって創建されました。謙信公は創建後まもなく天文二十年に常安寺に仏供田（大名など寺の外護者が仏様に米を供えるために寄進した田畑）と七堂を寄進され、「秋葉三尺坊大権現」を管掌する別当般若院の所領と

枋尾城のふもとにあった法用寺の寺領を寄進されました。そして弘治元年（一五五五）には後奈良天皇より「清瀧山護国報恩常安禅寺」の宸翰（天皇直筆の書）の額を賜り、勅願寺となりました。謙信公亡き後も景勝公の外護を受け、一時は七堂伽藍を配し壮大な威容を誇ったといわれています。

般若院寄進の際には、常安寺裏山の山上に火伏の（火防）の神様である秋葉三尺坊大権現が遷宮されました。秋葉神社奥の院は弘化三年（一八四六）年の建築であり建物全体には江戸の名工石川雲蝶と熊谷源太郎が八年の歳月をかけて彫った彫刻がほどこされており、長岡市の文化財に指定されています。現在も秋葉三尺坊の命日にあたる七月二十四日には遺徳をたたえた火祭りが行われ、家族連れなど多くの方で賑わいをみせています。

シリーズ
旅に
行きたい!!
第2回

見所たくさん東京、そして 安善寺 奈良寺院巡りの旅

新潟ビーエス観光 飯泉 隆史

前回の記事ではコロナワクチンが普及し、世の中は落ち着きを見せ、観光が復活したら…なんてことを思っていたら、今この記事を書いている段階では全国的にコロナを抑え込み、県内ではほとんど発生することもなく、東京に至りましては一本など夏には想像できないほどウィルスが抑え込まれています。そのおかげで全国的に旅行も活性化してきています。

今回はかなり遠慮されてきた東京に目を向けてみたいと思います。やっぱり東京は見所が沢山あつて歴史・文化のあるものから最先端物まで多くのものが融合しています。新しいものでは弥彦山と同じ高さ634メートルの東京スカイツリー。展望台からの景色は圧巻です。今では東京のランドマークですね。東京タワーも人気ではまだまだ負けていません。お買い物はス

カイツリーの下にあるソラマチタウンをはじめ六本木ヒルズやお台場、銀座、新宿、渋谷などキリがありません。

歴史あるものでは仲見世通りの有名な浅草寺や徳川家菩提寺の増上寺、赤穂浪士の泉岳寺、商店街でも有名などげぬき地蔵、有名人も多く結婚している明治神宮や寅さんで有名な柴又帝釈天。商店街が大変有名ですが題経寺という名のお寺で本堂の彫刻が大変素晴らしく、彫刻の寺とも呼ばれているので一見の価値あります。

美術館・博物館では東京国立博物館をはじめ、建物が世界文化遺産に登録された国立西洋美術館。当時の日本橋が原寸大で展示しており、東京の歴史がわかる江戸東京博物館。

そして東京ならではの皇居（江戸城）の見学や建物が素晴らしい赤坂迎賓館、見所の

沢山ある国会議事堂や日本銀行・造幣局の見学。

観劇では新しくなった歌舞伎座、帝国ホテルの目の前にある東京宝塚歌劇団、ディズニーマニアにはたまらない劇団四季、幅広く公演のある帝国劇場。

お食事では有名で美味しいお店は沢山ありますが皆さんで行くなら築地場外市場で散策も楽しみながらのお食事。市場は新しくなった豊洲へ移転しましたがお店は残っています。あと夜景を見ながらの墨田川の屋形船やシンフォニーで東京湾の船上ディナークルーズ、大相撲観戦の後、両国でちゃんこを食べるのもいいですね。

私のおすすめは感染拡大のため今現在は一時休止をしていますが、羽田空港でのJALとANAの工場見学。大きな格納庫の中で目の前で航空機を見学でき、大変迫力があり

ます。

見所はまだまだ沢山ありますがページの都合でこまで。安心して観光ができ、多くの人で賑わう東京をまた見たいものですね。

さて、安善寺様では令和4年4月5日から2泊3日で昨年中止となった御誕生寺参拝と古都奈良寺院巡りの旅を再び計画致しました。前回お話しした信貴山は来年寅年の特別

御開帳の年にあたり、秘仏を見学できます。また奈良では歴史ある寺院を多数参拝し。奈良の夜景を一望できる宿にご宿泊致します。タイミングが合えば桜も鑑賞できる見所の沢山ある旅行となっております。皆様ご参加のほどお待ちしております。

■旅のご相談・お申し込みは
新潟ビーエス観光まで
TEL 0258-3414848



すごい迫力の羽田空港「JAL 格納庫」



建物が素晴らしい「赤坂迎賓館」

あわてるな 昔はみんな歩いていた

新年を迎え気持ちも新たに今年が良い一年であるようにと願っている方も大勢おられることと存じます。

昨年は、世界中で地球温暖化によるとみられる災害が多発し、新型コロナウイルス蔓延で生活基盤が崩壊、環境の変化等で大きなストレスを感じた人も多数おられたと思います。日本においてもオリンピック・パラリンピックの開催、総理大臣の交代・衆議院議員総選挙等何かと落ち着かず、暮れにはオミクロンという変異株の出現で、忍耐の一年でした。

そんな折、境内を見渡すと



境内 春の新緑

木々等は、人間社会の心配とは関係なく、春には新緑、夏には深緑、秋には紅葉、晩秋から初冬には落ち葉、冬は裸木と淡々と年輪を増やし、春に向けて悠久の生命を育み、静かに力を蓄え、眠っているようです。

地球の気候の歴史をみると、過去七十万年の間に約七回の寒冷期と、その間の温暖期が存在したそうです。

現在は約三千年前に始まった氷河期の中で、少し暖かい間氷期にあたるそうです。しかし、人間活動に作り出す二酸化炭素等の温室効果ガスが過去に類をみない水準にまで



参道 晩秋から初冬の落ち葉

増えている為、地球全体の気候が変化し、各地に色々な新しいリスクが起きることが想像されます。

現代は、経済のためか、地球狭しと動き回り、自然破壊も進み必要以上に便利さを追い続けているように感じられます。そんな様子を観ていると、人間も生き物の一員、謙虚に驕らず、地球に自然に畏敬の念を抱いて生活せねばと強く感じられます。

故・板橋禅師様の日めくりには、次の言葉があります。「あわてるな 昔はみんな歩いていた。」



境内 冬の裸木

安善寺 よろず掲示板

「大本山總持寺にお米を送る運動」のご報告

昨年の「大本山總持寺にお米を送る運動」ですが、安善寺檀信徒の皆様からも沢山の協力を賜りましたこと御礼申し上げます。今回は總和会・嶽山会新潟県中越支部全体で375名の方からご協力を賜り、8,664キロのお米が集まりました。集まったお米は昨年十一月二十四日に無事、大本山總持寺にお届けいたしました。

たしました。大本山總持寺にお米が届くと一部を大黒尊天前に運び、献米諷經を行います。越後のおいしいお米を戴き、修行僧も益々修行に精進していることと思います。この運動は来年以降も継続して行う予定です。またこの紙面やお寺でご案内をさせていただきましますので、ご協力をお願い申し上げます。



集まった 8,664 キロのお米

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職が答えします）など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉 メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります

またまた
ボブのひとり言いつかは思い出になる
子供たちの落葉掃き

ボブのひとり言

長岡は曇天の続く毎日である。日を追うごとに寒さも加わって、散歩するどころかベランダに出る気分すらならないう。窓から見える木々達も葉っぱの衣を脱がされて寒そうだ。そんなセシメンタル気分につたっているのは私だけ：毎日住職達は大量の落ち葉を掃き、まだ落ちきっていない葉を見てはため息をつく。

そんな大変さを見かねてか、近所の子供達が手伝いにきてくれた。普段おそらくほうきすら持ったことのない子供達。初め



季節は移ろっていくニャ〜ん！

て使う竹ぼうきに苦戦し、集めても集めても風で散らかってしまふ葉っぱに文句を言い、掃いても掃いてもまた空から舞い落ちる葉をにらみながら、それでも一生懸命手伝ってくれた。あ、みんなよく頑張った、集めた落ち葉で焼き芋でも、と言いたくなるのだがこのご時世それが難しい。

今の子供達が落ち葉焚きの音や匂いを知らないのは残念だ。竹ぼうきが地面を擦るときや手に伝わる感覚もそうだ。経験すればいくつになっても音や匂いを感じるだけでその当時のことを思い出す。懐かしかったり、胸がキュンとなったり、友を思い出したり。手伝ってくれた子供達が大人になったとき、どこかで竹ぼうきの音を聞いたら安善寺を思いだしてくれらるとうれしく思う。

思い出に残るといえば、久美さんにも素敵な？思い出ができたようだ。山門にある銀杏の木は毎年たわわに実をつける。プチプチと実を踏みつけながら漂う匂いをこらえながら落ち葉掃きをするのは大変だ。

毎年もつたいないなあと思っていた久美さん。今年初めてぎんなん拾いを決行。そして決死のぎんなん処理。その匂いといつたら：しばらく身体にしみついでいて、大好きな久美さんといえども近づくのは遠慮したいほどだった。苦労の末にできあがった翡翠色に輝くぎんなんはこの上なく美味しいらしく、来年はもつともつと収穫しようとうれしそうに話している。銀杏の季節は久美さんのお膝を諦めるしかないニャ〜ん。

編集
雑感

明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍で動けず何もあるか判りませんが良き年となるように祈るばかりです。

今年は寅年で年男になっています。2022年の干支は壬寅（みずのえ）であります。もともと干支は世の理（ことわり）を知り、未来に備えるために生み出された暦のシステムであるようです。壬寅は陽氣を孕み、春の胎動を助く。冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるという事らしい。ちよつと期待して良い年になりそうですね。

春の胎動が大きく花開く為には地道な自分磨きを行い、実力を養う必要があるといったことを指し示しているということですね。スタートとしては良き年でしょう。もう終盤に来ている小生にはどうかな！と言ったことにはなりません、生かされている間は何においてもチャレンジでしよう。

広報委員会も長い間行わせて頂いておりますが、そろそろ世

交代代の時期になっています。若干の若い方々が参加してくれていますので安心ですがまだまだ参加者募集中です。それと同時に皆様の投稿が必須です。お気軽に投稿して下さい。どんなことでも大丈夫ですがあまり偏らず、思い出やお寺との関わり、旅行の経験趣味の事などなど何でも結構です。若い方々がお寺にお参りに来て下さることも大切です。宗教行事も大切ですがまず身近な存在であることが重要でしよう。

お釈迦様の教えは人生を豊かにして下さいます。宗派を超えて神も仏も祈る行為から始まり心に響き豊かにして下さいます。人生において目に見えない何かがあるのではありません。お寺に行きましようよ。笑顔・言葉がけ・有難うの感謝。そこには常に合掌を行い、謙虚であり寛容であり感謝し奉仕することが自然と身につくものです。変化する世の中でも基本的なことは変わらないものでしょう。心豊かに過ごせることは至極の生活でしよう。

(小林 国二)